

年間第2主日（1月18日）

[説教]

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

「年間」という時を歩み始めている私たちは、洗礼者ヨハネの、この言葉を自分に向かられた招きの言葉として受け止めています。年間という時は、主イエスに従って、主イエスとともに、福音を告げ知らせる時です。

私たちとともに歩んでくださる主イエスは、「世の罪を取り除く神の小羊」です。「小羊」は、弱いいのちです。自分を守る手段を持たず、何かあれば、すぐに傷ついてしまいます。不当な暴力に反撃することも、報復することもできません。自力で生きていけず、だれかにケアされる必要があります。私たちの救い主は、この世界に、小羊のように、弱いいのちとなって来られたのです。徹底的に弱くなられたのです。

私たち人間も皆、弱い存在です。神の小羊である主は、この真理を示してくださっているのです。私たちは、この真理を受け入れて、互いにケアし合って生きる時、平和に生きていくことができます。まわりのいのちに支えられなければ生きていけないという謙虚な思いを持つ時、この世界から争いがなくなります。まわりの人にケアされているから、私も、自分ができることを精一杯しようと思える時、そこに愛があります。愛とは、自分が弱い存在であることを認め、神に、まわりの人に愛されていることを感謝することから始まるのです。

神の小羊は、「世の罪を取り除く」方です。世の罪とは、何でしょうか。それは、自分が弱い存在であることを受け入れないことです。強くないのに強がり、神に生かされていることを忘れ、まわりの人にケアされていることに感謝しないことです。物事がうまくいくけば、自分の力だけを誇り、自分の思い通りにいかなければ、すべてをまわりのせいにすることです。誰かを悪者にして、自分は正しいと思うことです。思うだけでなく、全面的に悪いと決めつけて、他の人を巻き込んで、攻撃することです。他人の良いところを見つけようとして、悪いところばかりを探すことです。こうして、傷つけ合いが起こるのです。あらゆる形の暴力が生まれ、不必要的戦争が始まり、誰も、戦争を終わらせることができなくなるのです。さらに、弱さをごまかすために、必要以上の富を蓄えようとするのです。その結果、多くのいのちが犠牲となってしまうのです。

弱い者は悪く、強い者は正しい。そういう考え方方が今、多くのいのちを苦しめているのです。強くないのに、強い者のように振るまうことは、大きな罪です。強く見せるために、大量破壊兵器を保有したり、自国の利益しか考えないことは、大罪です。

私たちは今、「世の罪を取り除く神の小羊」をしっかりと見て、小羊のいつくしみを願いたいと思います。私たちのまわりの苦しんでいる人、悲しんでいる人のところへ行けば、神の小羊の姿を見ることができます。小羊のうめき声を耳にすることができます。小羊は黙っているかもしれません。その時は、心の叫びを感じることができます。そして、小羊の前にひざまづいて、私たちの罪を取り除いてくださるよう、心から願い求めましょう。罪が取り除かれる時、私たちは、強くなろうとしなくとも、生きていくができるようになります。弱い今まで、安心して生きていくことができます。弱いからこそ、愛せるように、愛し合えるようになります。神の小羊である主は、徹底的に弱くなることで、愛を貫いておられるのです。神の小羊は、愛の小羊なのです。

洗礼者ヨハネは、主イエスの上に、聖霊が降ったのを見て、主が「世の罪を取り除く神の小羊」であることを知りました。主は、同じ聖霊によって、私たちに洗礼を授けてくださいます。私たちは、洗礼を授けられることによって、「世の罪を取り除く神の小羊」となるのです。神の小羊とされて、世の罪を取り除く愛を宣べ伝えるのです。

さらに、私たちが分かち合っている聖体は、「世の罪を取り除く神の小羊」であるキリストです。聖体拝領の前、司式者は「世の罪を取り除く神の小羊」と言っているのです。この言葉の重みを、しっかりと心に受け止めましょう。そして、私たちが、聖体を分かち合う時、私たちも、共同体として、「世の罪を取り除く神の小羊」となります。教会は、キリストのからだですが、その意味は、「世の罪を取り除く神の小羊」のからだなのです。私たちは、「世の罪を取り除く神の小羊」となって、この世界に派遣されていくのです。そして、毎日の生活の中で、神の小羊の福音を宣べ伝えるのです。神の小羊の福音とは、「皆弱い存在だからこそ、ともに生きていくことができる。弱い存在だからこそ、愛し合うことができる」という福音なのです。